

第32回 理科サロン

NMR で観る分子の形・体の中・脳の働き



京都大学名誉教授

寺尾 武彦 氏

NMR (核磁気共鳴) 法は、20 世紀前半に原子核のもつ磁石の強さを測定するために開発されましたが、その後、**物質の優れた分析手段**として科学の広い分野で活用されてきました。20 世紀後半には NMR 法の革新的進歩によって、**タンパク質分子の形や働きの研究**にも使えるようになり、さらに NMR による**医用断層撮影法 MRI**が登場しました。20 世紀終盤には**機能的 MRI (fMRI)** が現れ、**脳活動の視覚化**が可能になりました。今世紀になって、**安静時における fMRI が意識の裏に潜む内的な脳活動を調べる手段**になり得ることがわかってきました。

本講演ではこの歴史的展開の物語と**安静時 fMRI**によって見えてきたものについて易しくお話したいと思います。

* 寺尾先生は日本のNMR研究を常にリードされてきた、世界的な研究者ですが、アイデアの豊富な先生で、色んな質問に分かり易く答えてくださいます。

日時：11月16日（金）

午後6時－8時 講演会
午後6時半までは寺尾先生
を囲んで夕食（*）

場所：けやきの会事務所

豊中市千里園2-1-37
（電話 06-6857-2562）

参加費：無料

* 夕食は各人で買ってご持参下さい。
飲み物は用意しています。また、
時間ぎりぎりになられる方のために
軽食を用意しています。

